



主要な FIDO アップデートを発表、パスワードを過去のものとするグローバルな取組みを加速

新しい FIDO UX ガイドラインと仕様の強化により、一般消費者および企業領域でのシンプルで堅牢な認証に対して高まる需要に対応可能に

(国際版の日本語訳)

コロラド州デンバー発、2021 年 6 月 23 日 - FIDO アライアンスは本日、パスワードの次に向けた世界の動きを加速することを目的とした、アライアンスとして初のユーザー体験 (UX) ガイドラインと新しい FIDO2 標準の機能強化を、デンバーとオンラインよりハイブリッドで開催されている Identiverse 2021 で発表しました。40 億を超えるデバイス、すべての主要なブラウザとオペレーティングシステムが FIDO 認証をサポートするようになったことから、サービスプロバイダーと企業が、フィッシング耐性がありプライバシーが強化されたシンプルなサインイン体験をさらに簡単に提供できるようになっています。

本日の発表は、FIDO 認証が広く支持されたことにより、サービスプロバイダーや一般消費者からの需要が高まっていることを受けたものですが、サービスプロバイダーや一般消費者は、採用率を最大限に高め、FIDO の導入を簡素化するための導入経路を必要としています。FIDO UX ガイドラインはその道筋を示しており、サービスプロバイダーは一般消費者が FIDO によるログインを理解し、採用し、ベネフィットを得られるよう支援することができます。

同時に、リモートワークの増加とそれに続くインフラストラクチャへのフィッシング攻撃の増加により、企業のデジタルトランスフォーメーション計画が加速し、堅牢な認証への優先度が上がっています。本日発表された FIDO2 の機能強化は、より迅速で効率的な FIDO 導入に対する企業独自の認証およびデバイス管理のニーズに対応するものです。

FIDO アライアンスのエグゼクティブディレクター兼 CMO であるアンドリュー・シキアは、「パスワードへの依存をなくすことは、今やオンラインサービスを提供するすべての企業にとって大きな目標となっています。これは、一般消費者サービスへのよりシームレスで安全なアクセスを提供するためであり、また、分散した従業員やシステムを標的とした巧妙な攻撃による脅威の増大に対処するためでもあります。アライアンスとして初の UX ガイドラインと FIDO2 の強化により、消費者と企業は、シンプルで安全なパスワードレスの未来に向けたツール、保護そしてロードマップを手に入れることができます」と述べています。

一般消費者領域における FIDO 認証の採用を加速するための UX ガイドライン

現在、ほぼすべての最新デバイスとウェブブラウザが FIDO 認証に対応しており、消費者は自身のデバイスのロック解除に使用している技術（指紋やフェイススキャンなど）を利用して、安全かつプライベートな方法でウェブサービスにサインインすることができます。大手サービスプロバイダーや金融機関の中には、この機能を内蔵し、顧客がパスワードのリスクや手間をかけずにログインできるようにしているところが増えていきます。FIDO UX ガイドラインは、サービスプロバイダーが顧客にデスクトップ環境での FIDO 認証によるログインを推奨するためのベストプラクティスとして作成されました。その他の FIDO 認証のユースケースについては、今後 UX ガイドラインで対応していく予定です。

UX ガイドラインは、www.fidoalliance.org/UX-guidelines で閲覧およびダウンロード可能です

UX ガイドラインは、サードパーティの調査会社 Blink UX が、Apple、Bank of America、eBay、Facebook、Google、IBM、Intuit、JP Morgan Chase Bank、Microsoft、Trusona、Visa、Wells Fargo などの FIDO アライアンスメンバー企業の UX および設計専門家と協力して実施した、モデレートおよび非モデレートの消費者調査の多くのセッションに続いて作成されました。

この取組と推奨事項の詳細については、FIDO アライアンスのエグゼクティブディレクター兼 CMO である[アンドリュー・シキアによるブログ記事](#)をご確認ください。FIDO アライアンスはまた、一般消費者向けの情報サイト loginwithfido.com を更新し、FIDO 認証の利用方法と利用箇所に関する情報を追加しました。

企業でパスワードレスを加速するための FIDO 標準の機能強化

FIDO アライアンスは、FIDO2 仕様の強化を発表しました。FIDO2 仕様には、パスワードレスの企業導入やその他の複雑なセキュリティアプリケーションに役立ついくつかの新機能が含まれています。FIDO2 仕様は、

W3C (World Wide Web Consortium) が Web 認証 Level 2 を承認し、FIDO が CTAP 2.1 を承認するなど、それぞれの運営団体によって更新されています。

これらの機能強化の鍵となるのは、エンタープライズ・アテストーションです。これにより企業の IT 部門は、従業員が使用する FIDO 認証器の管理を改善することができます。エンタープライズ・アテストーションは、認証器をアカウントに適切に紐づけし、使用状況の追跡や、クレデンシャルや PIN の管理、企業で必要とされる生体情報の登録など、その他の管理機能を支援します。

その他の更新には、クロスオリジン iFrame とアップル・アテストーションのサポート、およびレジデント・クレデンシャルの改善が含まれます。これらおよびその他の FIDO 仕様の機能強化の詳細については、[こちらのリンク](#)を参照してください。

本日午後 1 時 30 分 (米国山岳部標準時) より、FIDO 認証におけるユーザー体験の最適化に関するパネルライブにご参加ください。

FIDO アライアンスについて

「高速なオンライン ID 認証」を意味する FIDO (Fast IDentity Online) アライアンス www.fidoalliance.org は、セキュリティと利便性の両立をめざすため、2012 年 7 月に設立されたグローバルな非営利団体です。堅牢な認証技術に相互運用性が確保されていない状況を改善し、ユーザーが多くの ID とパスワードを覚えなければならないという煩わしさを解消することを目的としています。FIDO アライアンスは、認証におけるパスワード依存を軽減するために、オープンで拡張性と相互運用性のあるシンプルで堅牢な「FIDO 認証」を標準化することで、オンラインサービスの本質に変革をもたらします。FIDO 認証はオンラインサービスの利用時に、堅牢でプライバシーが確保された便利な認証を提供します。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

FIDO アライアンス アジアパシフィック・マーケット開発マネジャー
土屋 敦裕
pr@fidoalliance.org